

競技注意事項(案)

1.規則について

本大会は、2016 年度日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合せ事項にて実施する。

2.ウォームアップについて

- (1) ヤンマーフィールド長居補助走路にて行うこと。他の選手の迷惑にならないよう配慮すること。
長居公園周回道路を使用する場合は一般の方に十分配慮すること。
- (2) 競技場内での練習は開門後から競技開始 15 分前までとする。
- (3) その他、「練習に関する注意事項」を参照すること。

3.招集について

- (1) 第 1 次招集は、ヤンマーフィールド長居・室内練習場の競技者係にて規定の時間内に受けること。
- (2) 第 1 次招集は必ず競技者本人が受け、丸付けも行うものとする。
その際ナンバーカードをつけたユニフォームを持参すること。
- (3) リレー競技の第 1 次招集は、必ず走者 4 人全員が受けるものとする。
- (4) 同一時間に 2 種目以上出場する競技者、および競技中のため他のエントリー種目の第 1 次招集を受けられない競技者は、第 1 次招集完了時刻までに重複出場届を競技者係に提出すること。重複出場届は受付と競技者係で受け取ることができる。ただし、重複出場届を提出した場合も本人または代理人が必ず第 1 次招集を受けなければならない。その際、重複出場届の控えを持参すること。なお、重複出場届を提出しない場合は代理人による第 1 次招集を認めない。
- (5) 招集時間は下記の通りである。

種目	1 次招集開始時刻	1 次招集完了時刻	現地招集時刻
トラック競技・リレー競技	競技開始 30 分前	競技開始 20 分前	競技開始 10 分前
フィールド競技【下記項目除く】	競技開始 60 分前	競技開始 50 分前	競技開始 30 分前
フィールド競技【予選後の決勝】	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前	競技開始 20 分前
棒高跳	競技開始 90 分前	競技開始 80 分前	競技開始 60 分前

ただし 5000m の 2 組目の現地招集については、前の組がスタートしてから行う。

- (6) リレーオーダー用紙は、第 1 次招集開始時刻の 1 時間前までに競技者係へ提出すること。提出しなかった場合は棄権とみなす。リレーオーダー用紙は競技者係、または受付にて配布しているのでいずれかで受け取ること。
- (7) リレーオーダー用紙提出後の選手変更は原則認めない。ただしリレーオーダー用紙提出後に、選手の負傷などの理由によりメンバーの変更をする場合は指定する用紙に必要事項を記入し、本大会医務員の了承を得た場合のみそれを認める。

4.欠場について

- (1) 事前に棄権が判明している場合は、関西学連ホームページに掲載している事前棄権者届に必要な事項を記入し、10 月 17 日(月)16 時まで FAXにて関西学連事務所まで提出すること。
- (2) 当日棄権は原則として認めない。やむを得ず棄権する場合は、当日棄権届を第 1 次招集完了時刻までに総務および競技者係に提出すること。リレー競技については、リレーオーダー用紙提出締切時刻までに提出すること。
- (3) 混成競技において途中棄権する場合は、必ず競技者係に申告し、速やかに当日棄権届を提出すること。

5.競技者の服装について

- (1) ナンバーカードは平成 28 年度関西学生陸上競技連盟ナンバーカードを胸部、背部に明瞭に付けること。但し、跳躍競技出場選手はどちらか一方で良い。
- (2) リレー競技に限らず各大学、着用ユニフォームを統一すること。
- (3) トラック競技の腰ナンバーカードは競技者係で配付する(1500m以上は両腰につけること)。なお、腰ナンバーカードは競技終了後フィニッシュ地点で返却すること。また途中棄権などで競技を中止した場合も返却すること。

- (4) 男女 5000m、女子 5000mOP、男子 10000mW、女子 5000mW においては別ナンバーカードを配付する。出場選手は胸と背中に別ナンバーカードを付けること。
- (5) 競技場は全天候であるので、使用するスパイクのピンの長さはトラック・フィールド共に 9mm以下とする。但し、走高跳・やり投については 12mm以下とする。

6.競技について

- (1) トラック競技の準決勝・AB決勝の組合せ、コース順は主催者側が公正に抽選し決定する。また、その番組編成は 2016 年の番組編成ルールを適用する。
- (2) トラック競技におけるプラス進出の決定は競技規則第 167 条 2 項に従う。
- (3) 短距離競技のゴール後は、競技者の安全のために自分に割当てられたレーンの曲走路を走ること。
- (4) 長距離競技において気象状況により給水を行うことがある。
- (5) 競技場のトラック、フィールド内には競技者以外入らないこと。グラウンド内での競技者の付添やビデオ撮影などは一切禁止する。
- (6) 競技者は競技終了後速やかに退場すること。その際、大会本部前は通行禁止とする。
- (7) リレー種目に関して、各大学 2 チーム出場してもそれらは単体のチームとし、リレー出場メンバーのリレーチーム間の移動を認めない。
- (8) 競技中の選手に対する助言は競技規則第 144 条 2 項に順ずる。またフィールド競技に関しては現場の審判員が許可を与えた上でコーチ席にアドバイスを聞きにいことができる。しかし審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は審判長・総務・ヘッドコーチ等で協議し対処する。
- (9) 競技者は、ビデオ、ラジオ、オーディオ類、トランシーバーや携帯電話等の機器を競技場には持ち込めない(規則第 144 条)。

7.競技用器具について

- (1) 使用器具は原則として競技場備付けのものを使用する。
- (2) やりについては、検定を受けて承認されたもののみを使用する。検定は、競技開始 90 分前から 60 分前までとし、南側用器具倉庫前にて行う。
- (3) 棒高跳用ポールはピットをまたいでの貸し借りは禁止とし、大学関係なしにピットごとに貸し借りすること。
- (4) ポール・やりの事前発送は禁止とする。大会期間中であればポールのみ競技場への発送を認め、10 月 19 日(水)8:30 に競技場に届けること。受け取りの際は各大学必ず 1 人以上が参加すること。また返送は学連側で取りまとめて行わないので各自で行うようにすること。なお、大会期間終了後は競技場にポールを保管することは出来ないで、10 月 21 日(金)16:30 までに必ず持ち帰るようにすること。
- (5) 競技用器具を破損した場合は、当該競技者・補助員の所属大学に必要な代金を徴収する場合がある。

8.トラック競技について

- (1) 計時について、トラック競技の計時は写真判定(1/100 秒)とする。但し、装置の故障等のトラブルが生じた場合、手動計時(1/10 秒)とする。
- (2) 100m,200m,400m,100mH,110mH,400mH にてA・B決勝を設ける。準決勝で上位 8 名をA決勝とし、9~16 位をB決勝とする(種目によっては予選の記録上位者で行う場合もある。) 各種目 B 決勝を先に行い、A 決勝を後に行う。また表彰についてはA決勝出場者のみ対象とする。
- (3) 天候などの不測の事態が発生した場合は、総務・審判長・ヘッドコーチ・関西学連幹事長の協議により、競技内容の変更を行う場合がある。
- (4) 5000m・5000mW・10000mWに関しては、制限を設ける。各レーススタート後、次に記載している時間の経過時点で残り 1 周に達しなかった競技者は、その週のフィニッシュラインで競技を中止させる。

	5000m	5000mW	10000mW
男子	17 分	—	55 分
女子	20 分	30 分	—

9.不正スタートについて

- (1) 不正スタートと判定された競技者は失格となる。
- (2) スタートの号令は英語で行う。
- (3) 不正スタートの判定は目視にて行う。
- (4) 不正スタートの参考資料として、ビデオ撮影を行う場合がある。

10.フィールド競技について

- (1) 三段跳の踏切板の位置は、男子 13m、女子 10mとする。
- (2) フィールド種目について、各試技に制限時間を設ける。その際、審判員がストップウォッチにて時間を計測する
- (3) 投擲種目と跳躍種目において予選通過標準記録を設ける。予選通過標準記録を突破したものが決勝に進出でき、予選通過標準記録を超えた競技者が12名に満たない場合は、予選記録上位12名まで決勝に進出させる。ただし、予選通過標準記録を突破したものはその時点で競技終了とする。
- (4) 跳躍の各種目公式練習は2回とする。投擲の各種目公式練習は予選を1回、決勝を2回とする。ただし、ハンマー投げの公式練習回数は1回とする。審判員の判断によって回数を変更する場合がある。
- (5) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目		種別	試技	
男子	走高跳	A・B	1m70 以後 5cm ずつ	2m05 からは以後 3 cm
	棒高跳	A・B	3m20 以後 20cm ずつ	4m80 からは以後 10 cm
混成十種	走高跳	A	1m70 以後 5cm ずつ	1m90 からは以後 3cm ずつ
		B	1m45 以後 5cm ずつ	
	棒高跳	A	3m60 以後 20cm ずつ	4m40 からは以後 10cm ずつ
		B	2m40 以後 20cm ずつ	
女子	走高跳	A	1m45 以後 5cm ずつ	1m70 からは以後 3cm ずつ
	棒高跳	A	2m40 以後 20cm ずつ	3m60 からは以後 10cm ずつ
混成七種	走高跳	A	1m40 以後 5cm ずつ	1m55 からは以後 3cm ずつ
		B	1m25 以後 5cm ずつ	

練習の高さは当日競技者と審判員で話し合いを行い、高さを決める。

天候などの不測の事態が発生した場合は、総務・審判長・ヘッドコーチ・関西学連幹事長の協議により、設定の高さを変更し競技を行う場合がある。

- ① 競技者が1人となった場合の上げ方は、本人の希望により決める。但し、2ピットに分かれている場合は、両ピットを通じて1人になった場合に限る。
- ② 棒高跳の公式練習を行う際はゴムバーを使用する。
- ③ 十種競技の走高跳・棒高跳、七種競技の走高跳については、各種目競技開始前に希望の高さを申告すること。(但し標準記録以下の開始は認めない)。バーの上げ方は上の表に順ずる。

11.混成競技について

- (1) 第1次招集時刻は両日とも第1種目のみ「3.招集について-(6)」に従うこと。それ以後の招集時刻は、別紙「十種競技/七種競技申し合わせ事項」に従うこと。
- (2) 混成競技におけるフィールド種目の公式練習の回数は1回とする。

12.表彰について

- (1) 各種目3位までに入賞した競技者は、競技結果発表後、大会本部の表彰係まで来ること。(AB決勝についてはA決勝の1～3位を表彰の対象とする)
- (2) 大会最終日の競技終了後、種目別選手権最優秀選手・混成選手権の表彰を行う。最優秀選手に選ばれた競技者(男女1名)・混成選手権で3位までに入賞した競技者は、表彰係の指示に従うこと。

13.抗議について

- (1) 競技中に起きた競技者、あるいはチームの行為または順位に関する抗議は、規則第146条に基づき、正式に結果が発表(アナウンス)されてから決勝の場合は30分以内に、次のラウンドがその日に行われる種目では15分以内に、競技者または監督の口頭で受付に申し出ること(時間内に申し出がなければ、なんら問題は起きなかったものとみなされる)。

14.競技場使用について

- (1) 棒高跳のポール・やりを大会期間中競技場に保管することを希望する大学は、受付付近のエントランスに置いて良い。ただし、破損等があった場合は主催者側で責任を取らない。
- (2) リレーなどでマーキングに使用したテーピング等は使用大学が責任を持って撤去すること。

- (3) 各校の部旗・横断幕・のぼりの設置はサイド・バックスタンドのみ認める。但し、競技運営上支障をきたす場合や本部の指示があった場合は、速やかに撤去すること。またテープ類の使用は厳禁とし、ひもで固定すること。毎日、競技終了後には、撤去すること。
- (4) 室内練習場、更衣室、スタンドに毛布やシート等での場所取りは禁止する。置いて帰ることも禁止する。
- (5) 競技場開門時刻は全日 8 時 30 分とする。競技場閉門時刻は、最終競技または表彰式の終了 20 分後とする。
- (6) メインスタンドでの集団応援は終日禁止とする(応援については下記の通り指定する)。

100m スタート側

ゴールライン側



競技場入口側

※応援可能区域と禁止区域は、何らかの方法で場所を区切るの注意すること。

集団応援はバックスタンドで行うこと。但し、跳躍・投擲の競技中の近くでの集団応援は控えること。サイドスタンドでの応援も可能とする。ただし、大会運営に支障をきたす応援が行われている場合には、応援を制限することがある。その際には速やかに対応すること。

15. トレーナー活動について

- (1) トレーナースペース(室内練習場北側)での活動は事前に誓約書を提出した学校に限る。
- (2) トレーナーからのケアは大学関係なしに、参加選手全員が利用できる。
- (3) トレーナーは競技終了後、受付で配布する活動報告書を本部に提出すること。
- (4) 本部の指示に反した場合、活動を中止させることがある。

16. その他

- (1) 参加校は学生審判及び学生補助員派遣申し合せに基づき、定められた数の学生審判及び学生補助員を派遣しなければならない。その際、学生審判の服装は正装とし、公認審判員カードを着用して審判にあたること。また、受付にて配布する名札と腕章も着用すること。学生補助員はクラブ指定ジャージを着用する。
- (2) 競技場内へ立ち入る際は、アップシューズ及びスニーカーのみとする。
- (3) 競技中に発生した障害、疾病についての応急処置は主催者側で行うがそれ以降の責任は負わない。ただし、2016 年度(公社)日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
- (4) 荷物の管理は各自で行うこと。紛失、盗難に関して主催側は一切の責任を負わない。
- (5) 注意事項及び学生競技者としてマナーを逸脱した行為などが見受けられた場合、その学生の所属する大学の以後の競技を中止し、1 年間の大会出場を認めない。
- (6) 大会期間中疑問や質問があれば、大会本部まで申し出ること。

関西学生陸上競技連盟